

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

代表的エレクトロニクス企業の株価下落に思う

このところ、日本の代表的エレクトロニクス企業の株価下落が目立ちます。これら企業の株価を、世界のライバル企業と比較してみると、その差がはっきりします。

株価騰落率【2007年5月を100として】

	2010年5月	2011年5月	2012年5月
ソニー	53	49	25
パナソニック	64	55	33
シャープ	61	47	25
サムソン	147	166	244
アップル	210	217	468
現地通貨ベース			

どうして、日本のエレクトロニクス産業がここまで凋落したのでしょうか。

まず技術流失の問題は無視できません。途中・定年退職した日本企業高技術者の韓国や中国企業への再就職で技術流失するのは隠しようのない事実です。

円高の影響も相当大きいものがあります。一方で韓国サムソンは歴史的なウォン安の恩恵を受けています。しかし円高にすべての原因を押し付けるのは安易で、競争力回復の根本的解決にはなりません。

アップルiPod、iPhoneのような独創性、ブランド価値のある製品を生み出せなくなったことも指摘できます。また、たとえ画期的な製品を出しても、製品化のスピードが遅いため、追い越されるといってもあります。有機EL・TVでは、ソニーはいち早く11インチTVを開発しましたが、サムソンに55型を先に製品化され、大きく出遅れました。

2000年台に入り急速に進んだグローバル化の流れに、経営陣や経営資源が的確に対応しなかったという面も大きいでしょう。日本は、液晶テレビの生産を国内にとどめるなど、逆に内向きでガラパゴスの企業行動を取っていたという面も指摘できます。

では、今後日本のエレクトロニクス企業、引いては日本企業はどうすべきか、考えて見ましょう。

まずいえることは、過去の成功体験を捨て、ドラスティックにビジネスモデルの構造変革を断行する必要があります。たとえばIBMがハードからソフトに大きく舵を切り、ソフトやサービス主体のビジネスモデルに大転換したような大胆な決断です。ソニーがTV部門を売却するとか大幅に縮小しノン・コアにするという類の決断です。

生産拠点は国内に固執せず、世界の最適な場所につくり、コストを最小化させる必要があります。また人材では、日本人が経営するという固定観念を捨て、役社員含めてダイバーシティ(多様性)に重点を置いて、国籍を問わず登用する必要があります。そして、日本人もどンドン海外に出て、いわば無国籍企業を標榜してもいいほどです。その観点では、矢崎総業やYKKがモデルとなります。

また、株式・資本政策も世界の基準に合わせないと立ち行かなくなります。この面で日本は決定的に遅れています。社内取締役が大半を占める企業統治、株式の持合で自己保身が罷り通る悪しき慣行は早急に排除し、株主重視の経営にしていけることが、日本企業の競争力を復活させる重要な手段といってもよいのです。

バフェットのコココーラは利回り50%!

ウォーレン・バフェットの持ち株会社バークシャー・ハサウェイの最大保有株コココーラ(8.9%持ち株比率、時価150億ドル)の現在の配当利回りはおよそ50%です。!

バフェットは1988年に大半の6.2%を10億ドルで買ったのですが、その時の株価は3.75ドルで、1株配当金は0.15ドル、配当利回り4%とちょっとよかった程度です。しかし、そのとき以来ずっと増配を続けているので(実は50年も連続増配)、現在では1株配当金は1.88ドル。元の買付け株価に対して、50%配当となるわけです。10億ドルの投資に5億ドルの配当金がもらえるのです。そして株価はなんと20倍です!



この配当利回りは、増配が続けばまだ上がり続けます。こんないいことはありませんね!これが、長期投資の威力というもの。コココーラの現在の利回りは2.7%と大したことないのですが、これから先どうなるか、大変楽しみです。

今月の言葉:

幸福は満足したものにやってくる。

-アリストテレス

弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>



毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20 汐留ビルディング3階

電話 : 03-6721-8386

携帯 : 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール : info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを
-びとうファイナンシャルサービスの大切な役割



高配当利回り株は安かろう悪かろうではない!

米国の著名な学者、ジェレミー・シーゲルによると、下表の通り、1957年に配当利回りのもっとも高い上位20%銘柄に1000ドル投資し配当金を再投資すると、2011年まで米国S&P500株価指数を年率2.6%上回り、300%以上アウトパフォームしたとのことです。しかも、S & P500指数よりリスクは少なかったということです。同じく、次に配当利回りが高い20%グループも、より少ないリスクで、S&P500株価指数を年率2.2%、同じ期間で275%アウトパフォームしたとのことです。なお、下の表のベータという数字は、S&P株価指数を1.00としてそれより低いとリスクがS&P株価指数より少ないことを表しています。

(現在実績*-1957年1000ドル投資した場合)

配当利回りが	投資利回り	ベータ	現在実績*
最も高いグループ	12.6%	0.94	60.9万ドル
次に高いグループ	12.2%	0.82	50.7万ドル
中間のグループ	9.4%	0.92	12.6万ドル
低いグループ	8.5%	1.07	9.0万ドル
最も低いグループ	8.7%	1.23	8.3万ドル
S&P500指数	10.0%	1.00	17.4万ドル

ここで、配当利回りが高いことの要因は2つあります。

1. 株価が安い。
2. 配当金は下がらない。または、配当金の下げ幅が株価の下げ幅より小さい。

株価は、業績の下落とともに、市場全体が下がったときにも、それに引っ張られて下がります。そして、配当利回りが高いグループ全般で見ますと、株価の下げ

幅に比べて配当金は下がりにくい、あるいは、株価が下がっていても配当金を上げる会社も多いのです。

先に配当金は再投資するつもりでしたが、この配当金再投資がポイントです。高配当とは、配当金がたくさんもらえるということです。しかも、元本である株価は下がっているから、たくさんもらえる配当金で、安い株価の株をたくさん買えるということになります。それが、長い間に配当利回りが高いグループがS&P株価指数をはるかに上回るパフォーマンスになる理由です。

また配当利回りが高い会社は、配当金を下げたがらないばかりか、業績を伸ばして上げようと株主還元意識が強い会社が多く、株価は売られすぎや業績への過度の懸念による株価下落を乗り越え、一時的な下落から戻り、さらに上がる傾向があります。そうすると、株価が安い時にたくさん配当金で株を沢山仕込み、株数は多くなり、既存の持ち株とともに、パフォーマンスにさらに大きく寄与するようになるのです。

さらに、配当利回りが高い会社は、配当自体をたくさん安定して出す会社が多く、配当を出さない会社より株価の変動が少なくなる傾向があります。これが、配当利回りが高いグループがS&P株価指数よりリスクが少なくなる理由です。リスクが少なく、パフォーマンスははるかによいとなれば、これは注目しに値します!

私ども、びとうファイナンシャルサービスは、このような観点からお客様にアドバイスしています。特に米国や新興国の株式などに精通し、上のような本来あるべき資産運用の姿をお客様が体験できるよう日夜努めています。

第17回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』を開催します！

—こうすればセカンドライフを豊かに過ごすことができる—

大切な資産運用で、本当のことを知るのはいへんむずかしくなっています。いい情報も危ない情報もあふれ、手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動はますます激しくなっています。思わぬリスクの高い商品を勧められ、取り返しの付かない損を被ることも珍しくありません。

日本の将来が不透明感を強める中、国の制度や周囲に頼ることはできません。自分でしっかり判断して、人生を切り開いていく必要があります。資産運用もまさにその通り。このセミナーで、他では絶対に聞けない、人生を安心して過ごせる「正しい資産運用法」をぜひ学んでください。きっとかけがいのない時間となることでしょう。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤峰男だから語れる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！

◆ このセミナーで「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」がわかる！ ◆

～参加無料 限定10名～

日時：2012年7月28日(土) 15:00～17:00

場所：TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml>

(最寄り駅：有楽町・日比谷駅)

申し込みは、下記メールまたは電話にて「7月28日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール： info@bfsc.jp

Tel: 03-6721-8386



講師：尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

プロフィール：

米国CFA協会認定証券アナリスト、CFPR、日本証券アナリスト協会検定会員、1級FP技能士、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーとして、個人の金融資産や退職金の運用助言・ライフプランニングサービスを提供する。2000年当社設立。グローバルな投資理論や外国株投資・国際分散投資への造詣が深い。日本経済新聞、週刊東洋経済、日経マネーなどへのコメント多数。日経CNBCにもたびたび出演。著書に「いまこそ始めよう 外国株投資入門」日本経済新聞出版社。投資助言・代理業として関東財務局登録。